

# 技術含め海外展開も推進 リサイクル事業60周年に

NCT化学のリサイクル事業が今年10月、創業60周年を迎える。同社は早くから海外で事業を展開し、とくに技術開発を含めたリサイクルでは先駆的な存在。その遺伝子は今も脈々と引き継がれている。

創業者の正山四郎氏は1964年に事業を立ち上げ、66年に東京国際貿易を設立した。73年には昭和電工（現レゾナックホールディングス）とシンガポールに合弁会社を設立し、家電、車部品の射出成形、塗装などを開始した。

発泡スチロール溶融インゴットの海外販売を始めたのが76年。東京都中央卸売市場築地市場に関わる会社の協力を得ながら廃棄魚箱などの再利用に成功した。この事業は84年の溶融工場建設（横浜市）、横浜市中央卸売市場（本場、南部市場）と広がっていく。正山四郎氏が命名した「A-LUMP」の商品名は現在でも全世界で使用されている。

東アジアや東南アジアにリサイクル事業を普及させるため中国語の「プラスチック成形入門」も発行した。

正山堯社長が樹脂事業責任者に就任したのは87年。89年以降、住友化学、新日鐵化学（現日鉄ケミカル&マテリアル）など多くの大手樹脂メーカーの1次販売店となってパージン材料を扱い、これを契機にリサイクル材料の品質を高める取り組みに力を入れていく。

家電リサイクル法施行にいち早く対応。01年に台湾でミックスプラスチックの選別加工、コンパウンドを開始した後、07年から日本全国の家電リサイクルメーカーと協力し日本で分離再生、コンパウンドを開始した。

PETボトルのリサイクルにも積極的で、95年にリサイクル材の販売を開始。19年からは独立行政法人国際協力機構（JICA）の中小企業海外展開支援事業としてケニアで使用済みPETボトルの再資源化プロジェクトを遂行した。

18年、新ケミカル商事グループとなり、社名をTTC化学からNCT化学に変更した。今後もプラスチックのプロフェッショナルとして循環型社会に貢献していく。



正山社長